

COOP JOSO

News Letter

常総生活協同組合

発行 / 生協広報G



【ものづくり・人づくり・地域づくり】2018 年度活動テーマ ～素材を活かしてわが家の味～

～守ろう！子どもたちの未来を！～

GMO フリーゾーン全国集会 in 成田

(GMO フリーゾーン運動のはじまり)

GMO フリーゾーン（遺伝子組み換え作物を拒否する地域）運動は、スローフード発祥の地として有名なイタリア・トスカーナ地方のワイン農家によって1999年に始まりました。その後、2002年に環境団体「地球の友」がイギリスでキャンペーンを立ち上げたのをきっかけにヨーロッパだけでなく、北米やアジア、オセアニア地域にも拡大し、今や世界中に GMO フリーゾーンが誕生しています。

ヨーロッパでは、イタリアで全土の約8割、フランスで1000を超える自治体、オーストリアやポーランドで全州政府、ギリシャで地方政府すべてが GMO フリーゾーン宣言行方など、フリーゾーンは拡大の一途をたどっています。

(日本の GMO フリーゾーン運動)

日本で GMO フリーゾーン運動が本格的にスタートしたのは2005年。農薬空中散布に反対し、環境に配慮したコメ作りを行っていた滋賀県高島市の農家が同年1月、圃場に畳3畳大の看板を立て、GMO フリーゾーン宣言したのが始まりです。

翌2006年3月に第1回 GMO フリーゾーン全国交流集會を高島市で開催した後、ほぼ1年に1度のペースで全国集會を開き、運動の拡大をはかっています。

自治体による宣言が主流の欧米と異なり、日本の GMO フリーゾーン宣言は農家や消費者が個々に行っているため、面積拡大のスピードは決して速くありません。しかし、市民が自主的に行動し、草の根で進める、この運動の意義はとて大きいと言えます。

「遺伝子組み換え作物は植えない、売らない、食べない」ことを宣言する GMO フリーゾーン運動は、多様な種子を多様な農法で営む農業を守り、自然と共生する人間の暮らしを守る運動です。それは、いのちを守り育む人たちの連帯運動と言い換えることもできます。

先祖から受け継いだ暮らしと自然を守り、それを未来の子どもたちに引き継ぐための GMO フリーゾーン運動は今後ますます重要になっていきます。



2019 年 1 月の予定

●生協基幹運営／地域活動・催し●

1月ゴンタの丘「常総っ子応援団」は毎週木曜日活動しています。試食会は1月31日に行います。
1/18（金）歴史を学ぼう－未来のために
1/30（水）定例理事会
2/1（金）常総生協 生産者の会 総会

●提携・協同・連帯企画●

1/16（水）茨城有機農研 新春交流会
1/25（金）～26（土）生協ネットワーク21 専務交流会
1/25（金）出張みそ作り講座@母親クラブ
1/26（土）出張みそ作り講座@とみせ幼稚園

GMO フリーゾーン登録状況

2018年GMOフリーゾーン(農地)登録状況 (2018年2月27日現在)

	面積(ha)	前年増減		面積(ha)	前年増減		面積(ha)	前年増減		面積(ha)	前年増減
北海道	46121.51	322.75	東京都	190.18	30.8	滋賀県	295.81	4	香川県	75.88	3
青森県	113.86	0	神奈川県	246.55	0	京都府	75.6	25	愛媛県	289.18	0.38
岩手県	180.86	0	新潟県	191	0	大阪府	632.05	0.38	高知県	664.33	0
宮城県	7735.59	0	富山県	40	10	兵庫県	7070.5	18.65	福岡県	1082.99	20.9
秋田県	313.87	0	石川県	0.1	0	奈良県	361.91	17.8	佐賀県	2219.05	10
山形県	5176.49	20	福井県	4.3	0	和歌山県	31.98	0	長崎県	832.21	27.91
福島県	241	0	山梨県	1462.7	16.7	鳥取県	1197.95	5.2	熊本県	1141.35	189.54
茨城県	476.59	1.81	長野県	339.36	48.4	島根県	189.16	0.41	大分県	148.97	43
栃木県	2182.47	0	岐阜県	118.75	93.35	岡山県	23.86	0	宮崎県	271.57	33
群馬県	155.91	0	静岡県	108.15	10	広島県	80.83	3.2	鹿児島県	464.33	0
埼玉県	334.33	10.3	愛知県	3157.29	223.07	山口県	947.9	2.62	沖縄県	8.64	0
千葉県	1124.11	0	三重県	377.24	117.2	徳島県	7027.97	0.9	合計	95526.22	1310.27

2018年GMOフリーゾーンサポーター(個人)登録状況 (2018年2月26日現在)

	人数	前年増減		人数	前年増減		人数	前年増減		人数	前年増減
北海道	2	2	東京都	2,729	455	滋賀県	112	33	香川県	31	1
青森県	44	18	神奈川県	2	0	京都府	374	172	愛媛県	40	2
岩手県	264	83	新潟県	0	0	大阪府	1,207	65	高知県	39	1
宮城県	401	0	富山県	0	0	兵庫県	707	17	福岡県	293	263
秋田県	0	0	石川県	0	0	奈良県	252	13	佐賀県	90	10
山形県	39	0	福井県	1	0	和歌山県	0	0	長崎県	72	60
福島県	10	1	山梨県	21	4	鳥取県	35	35	熊本県	631	44
茨城県	842	1	長野県	36	15	島根県	19	12	大分県	191	7
栃木県	613	0	岐阜県	72	72	岡山県	164	49	宮崎県	100	26
群馬県	135	5	静岡県	302	3	広島県	163	1	鹿児島県	83	25
埼玉県	649	304	愛知県	528	361	山口県	383	79	沖縄県	0	0
千葉県	1,629	264	三重県	2	2	徳島県	44	0	合計	13,351	2,505

集計: 遺伝子組み換え食品いらない! キャンペーン

茨城県はGMO全国フリーゾーン集会を開催していない県です。この運動自体の認知も弱いと考えられます。常総生協も生産者・組合員へ呼びかけを強化して登録人数・面積を増やす取り組みをしていきます。

常総生協と GMO (遺伝子組み換え生物) とは深い因縁があります・・・。

「私たちの地元の大豆を遺伝子汚染から守れ！」(2003年)

モンサント社による「日本での遺伝子組換え大豆栽培」の野望を打ち砕いた常総生協

「手作りみそ」と並んで常総生協のもうひとつの伝統(?)が自分たちの食を守るためには「行動する」原理。

1996年日本が遺伝子組み換え(GM)食品の輸入を認めた時、常総生協は3週間で6千名の組合員署名を集めて単身厚生省(当時)に乗り込み「輸入許可を取り消せ!」と単独交渉。以後、常総生協内では輸入が開始される「遺伝子組み換えなたね」の油をめぐる激論。自分たちで安全な油を作るか?として菜の花栽培のプロジェクトを開始。組合員・生産者が菜の花を栽培して油を搾る運動を展開。

「大豆」についてはGM大豆輸入に対抗して地場大豆の契約栽培を2001年より開始。2003年モンサント社が地元谷和原村の農家に話しをもちかけ一般ほ場を使って遺伝子組み換え大豆栽培を始めたことが発覚。常総生協は、生産者や農協、地域の市民団体に呼びかけてネットワークを結成し農水省に栽培中止命令を出すよう



交渉。農水省は黙認。GM大豆の花が咲き始めたことから花粉飛散による遺伝子交雑を防止するために「直ちに栽培中止、刈取り」を要求。

GM大豆の花が咲き始める中、常総生協の生産者・組合員・職員、農協、地元有機農業者らは「近くにある私たちの大事な大豆。モンサント遺伝子による汚染は許さない」として遺伝子組み換え大豆の引き抜き・うない込みを実行。

警察が常総生協の理事会に事情聴取に入るも生協の女性たちは動じず。生協は逆にモンサント社、農水省、水海道警察を呼んで「公開検証会」開催を逆提案。全国から農家・市民の応援が200名も集まった。

この「事件」をきっかけにモンサント社が全国5か所の一般ほ場で秘密裏に遺伝子組み換え大豆栽培をしていたことが発覚し全国に飛び火。モンサント社は栽培中止に追い込まれた。

常総生協は、茨城県議会へ「県としての遺伝子組み換え作物規制」の請願署名運動を展開して12月県議会で採択され、県知事は「事前の届け出制」を宣言。以後自治体レベルでもGM栽培の手続きで実質的規制に。

こんな「行動する生協」の伝統は、その後も東日本大震災での被災地支援や福島第一原発事故による放射能への対応、常総水害等に直面したときの組合員・職員の素早い対応として生き続けています。

GMOフリーゾーンを宣言して登録面積を拡げよう！

(だれが宣言できるの?)

遺伝子組み換え作物を栽培したり、取り扱ったり、食べたりするのがいやな人は、誰でも宣言できます。GMOフリーゾーン運動は、農家に限定せず、消費者も食品関連企業や流通業界の人も参加できる取り組みです。

- ① GM作物を作らない農家
- ② GM食品を作らない食品業者
- ③ GM食品を売らない流通業者
- ④ GM食品を買わない消費者

など、誰もが参加できます。農家以外の方はGMOを拒否し、GMOフリーゾーンを守るサポーターとしての役割が期待されます。

(どうすればいいの?)

宣言すると同時に、(1) GMOフリーゾーン宣言の文書に署名し、遺伝子組み換えいらないキャンペーン事務局に送り登録する、(2) ほ場や玄関などに看板を立てる、(3) 周囲の人に参加を呼びかけ広げていく、以上の3つが、宣言に伴う基本的な行動です。

(問い合わせ・送付先)

遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン事務局

TEL 03 (5155) 4756、FAX 03 (5155) 4767

第14回

GMOフリーゾーン

全国交流集会 in 成田



～守ろう！子どもたちの未来を！～

成田から世界に発信、NON-GMO

GMO…遺伝子組み換え生命体を意味します。主に遺伝子組み換え作物を指します。GMOフリーゾーン運動とは、遺伝子組み換え作物を栽培しない地域を広げる運動です。

日時 2019年3月2日(土)

全国交流集会

12:30 受付開始

地域特産品、グッズ、書籍販売など(受付ロビー)

13:30~17:30

会場 ANAクラウンプラザ成田

2F オーキッド

成田市堀之内 68 (TEL 0476-33-1354)

参加費：1,000円

成田は、空港建設という巨大な国家プロジェクトに抵抗し、有機農業運動やその販売を通して、地域に根差した運動を進めてきた地です。遺伝子組み換え作物・食品を拒否し、作らせない、流通させない、食べないという力は、地域の小規模で、食の自給や安全を目指した農業の中にこそあります。市民と生産者による GMO フリーな社会を、この成田の地から築き上げ、皆様と一緒に広げていきたいと思えます。

プログラム

●基調講演

『みんなモルモット？

ゲノム操作食品』

講師 天笠啓祐氏

(遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン代表)

●特別報告 成田地域の有機農業

堀越一仁氏 (三里塚微生物農法酵素の会)

高柳功氏 (おかげさま農場)

●GMOフリーゾーン 2018 年度報告

及び各団体報告

●国際活動報告

台湾、韓国、GMOフリーゾーン欧州会議

会場アクセス

◆成田空港第2ターミナル25番バス停から

11:50 共同運航バス 12:30 直通バス

12:50 共同運航バス

◆成田空港第2ターミナルよりタクシー10分

主催

第14回 GMOフリーゾーン in 成田全国交流集会実行委員会

構成団体：遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン・生活クラブ千葉・常総生協・なのはな生協・おかげさま農場・三里塚微生物農法酵素の会・丸和食品・千葉産直サービス・大栄みみずの会

GMOフリーゾーン全国集会 in 成田に参加します！

・コース名： _____ 組合員番号： _____ お名前： _____ 参加人数： _____ 名

どちらかに☑お入れてください。

生協本部から車乗り合わせ希望 (生協本部集合 11:00)

現地集合

こちらのQRコードからも申し込み可能です。

